

初任者研修情報開示

情報の種類	内容
法人情報	●法人格・法人名称・住所等 株式会社 土屋 岡山県井原市井原町 192 番地 2 久安セントラルビル 2 階 代表取締役 大山敏之 ●代表者名、研修事業担当理事・取締役名】 研修事業者担当理事・取締役 五十嵐憲幸
研修機関情報	●事業所名称・住所等 土屋ケアカレッジ 鹿児島教室 〒892-0827 鹿児島県鹿児島市中町 4-19 SKFcore2 3F TEL : 050-3138-2024 ●理念 介護に携わる者が、業務を遂行する上で最低限の知識・技術とそれを実践する際の考え方のプロセスを身につけ、基本的な介護業務を行うことができるようにすることを目的として実施する。 ●学則 「学則」のとおり
研修の概要	●対象 (1) 鹿児島県内または鹿児島県近郊在住・在勤で通学可能な者 (2) 株式会社土屋の社員で、研修を必要とする者 ●研修のスケジュール(期間、日程、時間数) 「研修コーススケジュール」のとおり ●定員(集合研修、実習)と指導者数 定員 12 名 指導者数 7 名 ●研修受講までの流れ(募集・申し込み) 「学則」項目 7 のとおり ●費用 「学則」項目 8 のとおり ●留意事項、特徴、受講者へのメッセージ 【留意事項】 「学則」項目 20 のとおり

	【特徴】 通学 13 日間、自宅学習全 4 回を一緒におこなっていただく研修です。実技試験、筆記試験をおこない、総合的に評価し合格となった場合には、修了証を発行いたします。 修了証はご自宅へ後日郵送いたします。 【受講生へのメッセージ】 初任者研修は、介護の入口となる資格です。基本的なことから丁寧にお伝えいたします。分からないことは分からないままにせず、講師にたくさん質問し、生きた知識となるようにしましょう。困ったこと、不安なことがありましたらお気軽にお問い合わせください。
課程責任者	土屋ケアカレッジ 運営マネージャー 相川和史
講師一覧	「講師一覧」のとおり
施設設備・備品	「実技演習使用備品等一覧」のとおり
研修カリキュラム	「カリキュラム（通信課程用）」のとおり ●科目別シラバス 「シラバス」のとおり ●科目別担当教官名 「講師一覧」のとおり ●科目別特徴 演習の場合は、実技内容・備品、指導体制 「シラバス」のとおり 演習科目の場合は、実技内容・備品・指導体制 「シラバス」2 巻 P3～11 のとおり 【総合生活支援技術演習】について 事例は高齢者（要支援 2 程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から 2 事例を選択して実施。介護過程の展開（ICF 表への落とし込み・計画の立案等）をグループワークとして実施。 計画等に基づいた実技評価の実施に向け、事例の既往歴や介護技術の注意点等を考慮して演習の手順を考えてもらい、考えた手順に沿って演習を行う。その際に修正すべき箇所があれば、その都度修正・アドバイスをを行う。 使用備品 ・ベッド（電動等） ・パジャマ、寝間着 ・車いす ・ポータブルトイレ ・寝具 ・その他（タオル、洗面器等）

(通信) (修了評価)	●科目別通信・事前・事後学習とする内容及び時間 「カリキュラム（通信課程用）」のとおり ●通信課程の教材・指導体制・指導方法・課題 「学則」項目 10・項目 12 のとおり ●修了評価の方法、評価者、再履修等の基準 「学則」項目 13 のとおり
講師情報	●名前 「講師一覧」のとおり ●略歴、現職、資格 「担当講師略歴」のとおり
実績情報	●過去の研修実施回数 令和 5 年度 研修実施回数：8 回 令和 6 年度 研修実施回数：4 回 令和 7 年度 研修実施回数：5 回 ●過去の研修延べ参加人数 令和 5 年度 研修実施回数：31 人 令和 6 年度 研修実施回数：8 人 令和 7 年度 研修実施回数：34 人
連絡先等	(お申込み・資料請求先) 土屋ケアカレッジ 運営事務局 TEL：050-3138-2024 Mail:college@care-tsuchiya.com Web: https://tcy-carecollege.com/ ●法人の苦情対応先 土屋ケアカレッジ代表 五十嵐憲幸/TEL：050-3138-2024 ●事業所の苦情対応先 運営マネージャー 相川和史/TEL：080-4635-1880

学 則

1	事業者の名称, 所在地 及び連絡先	株式会社 土屋 岡山県井原市井原町 192 番地 2 久安セントラルビル 2 階 電話 : 050-3733-3443 FAX : 050-3457-9334
2	研修事業の名称	土屋ケアカレッジ介護職員初任者研修課程
3	研修課程及び形式	介護職員初任者研修課程 (通学 ・ 通信)
4	開講の目的	介護に携わる者が、業務を遂行する上で最低限の知識・技術とそれを実践する際の考え方のプロセスを身につけ、基本的な介護業務を行うことができるようにすることを目的として実施する。
5	研修責任者の氏名 研修担当部署 研修担当者及び連絡 先	土屋ケアカレッジ 九州エリア運営事務局 相川 和史 電話 : 050-3138-2024
6	受講対象者(受講資格 及び定員	(1) 鹿児島県内または鹿児島県近郊在住・在勤で通学可能な者 (2) 株式会社土屋の社員で、研修を必要とする者 (3) 定員 12 名
7	募集方法(募集開始時 期・受講決定方法を含 む) 受講手続及び本人確認 方法	募集開始時期：令和 7 年 1 月 1 日より開始。 申込み方法：電話・メール・Web にて受付。 運営事務局は受付後、受講者に受講決定通知をメールにて 送付。 申込み先：土屋ケアカレッジ運営事務局 TEL : 050-3138-2024 Mail: college@care-tsuchiya.com Web: https://tcy-carecollege.com 受講決定方法：申し込み受付後定員調整の上決定 (応募者多数の場合の決定方法：申込順) 当社は、書類審査の上、受講者の決定を行い受講の決定を受講者 あてに通知する。 受講の決定を受け取った受講者は、指定の期日まで に受講料等を納入する。 当社は、受講料等の納入を確認した後、初回授業の際に教 材を手渡しする。 鹿児島県介護職員初任者研修事業者指定要領別紙 8「受講者の本 人確認について」1 に準じて、本人確認を行う。
8	受講料、テキスト代 その他必要な経費	29,000 円 (税込、テキスト代込) (内訳) ・受講料 24,000 円 ・テキスト代 5,000 円
9	研修カリキュラム	別添様式 4 のとおり

10	通信形式の場合その実施方法 添削指導及び面接指導の実施方法 評価方法及び認定基準 自宅学習中の質疑等への対応方法	【通信学習の実施方法】 ・添削課題を提出期限までに提出することとする。添削課題については、課題の理解度及び記述の的確性、論理性に応じて、講師がA、B、C、Dの評価を行うこととする。(A=90点以上、B=80～89点、C=70～79点、D=70点未満) 尚、評価C以上を合格とする。合格点に達しない場合は、合格点に達するまで再提出を求める。受講生の質問については、担当の講師と電話での質疑のやりとり、もしくはFAX（番号：050-6868-9148）にて受け付け、回答をおこなう。
11	研修会場 (名称及び所在地)	土屋ケアカレッジ 鹿児島教室 鹿児島県鹿児島市中町 4-19 SKFcore2 3F
12	使用テキスト (副教材も含む)	介護職員初任者研修テキスト（中央法規出版株式会社）
13	研修修了の認定方法 (習得度評価方法含む)	修了の認定は、次の修了評価（成績評価及び筆記試験）を行った上、修了認定会議において基準に達したと認められた者に対して行う。 成績評価は、鹿児島県介護職員初任者研修事業者指定要領別紙 1「カリキュラムの取り扱い」別表 3「各科目の到達目標、評価、内容」において定められている「修了時の評価のポイント」に沿って、担当講師が科目ごとに行い、各受講者の知識・技術等の習得度に基づいて項目全体の評価を行う。また、介護に必要な基礎的知識の理解度及び生活支援技術の習得状況の評価については、併せて実技試験も行う。実技試験は、「9 ところとからだのしくみと生活支援技術」の面接授業内で行う。成績評価で知識・技術等の習得が十分でないと評価された者は必要に応じて補講等を行い、筆記試験より前に到達目標に達するように支援する。 筆記試験は、別添様式 4 の研修カリキュラムを全て履修した者に対して行う。 評価基準は次のとおり理解度及び実技習得度の高い順に A、B、C、D の 4 区分で評価したうえで、C 以上の評価の受講者は評価基準を満たしたものと認定する。評価基準に達しない場合には、必要に応じて補講などを行い、基準に達するまで再評価を行う。 認定基準（100 点を満点とする） A=90 点 B=80～89 点、C=70～79 点、D=70 点未満
14	欠席者の取り扱い(遅刻・早退の扱い含む) 補講の取り扱い (実施方法及び費用等)	理由の如何にかかわらず、研修開始から 10 分以上遅刻した場合は欠席とする。 研修の一部を欠席した者で、やむを得ない事情があると認められる者については、土屋ケアカレッジ所属の当該科目の講師要件を満たす講師が補講を行うことにより当該科目を修了したものとみなす。 補講費用については、原則無料とする。

15	科目免除の取り扱いとその手続き方法	科目の免除についてはこれを認めない。
16	解約条件及び返金の有無	受講申し込み後は、事由に問わず受講料の返金を行わない。尚、受講生が集まらないなど講座側の都合で開講できない場合には速やかに返金する。
17	情報開示の方法 (ホームページアドレス等)	鹿児島県介護職員初任者研修事業者指定要領別紙 10「研修機関が公表すべき情報の内訳」に掲げる情報をホームページ内にて公表するものとする。 Web: https://tcy-carecollege.com
18	受講者の個人情報の取扱い	当事業所は、個人情報の保護の重要性を認識し、研修の実施に当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報の取扱いを適正に行う。受講者とは電磁的方法もしくは書面により同意を得る。 当事業所は、都道府県に研修実施状況を報告する場合を除き、研修の実施に際して知り得た個人情報を研修目的以外のために利用し、又は第三者に提供しない。
19	修了証明書を亡失・き損した場合の取扱い	修了者から再発行の依頼があった場合は、修了者名簿により修了者であるか確認し、鹿児島県介護職員初任者研修事業者指定要領別紙 8「受講者の本人確認について」1 に準じて依頼者が本人であるか十分確認したうえで、鹿児島県介護職員初任者研修事業者指定要領別紙 7「修了証明書再発行の取扱い」2 に準じて再発行を行う。 再発行手数料は 2,000 円＋発送費用とする。
20	その他研修実施に係る留意事項	研修に関して下記の苦情等の相談窓口を設けて研修実施部署と連携し、苦情及び事故が生じた場合には迅速に対応する。 苦情対応部署：土屋ケアカレッジ受講生担当窓口 電話 050-3138-2024
21	研修受講の取り消し	(1) 学習意欲が著しく欠け、修了の見込みがないと認められる者 (2) 研修の秩序を乱し、その他受講者としての本分に反した者 (3) やむを得ない事情なく、受講開始より 6 か月経過した者 (4) 反社会的勢力またはその関係者と認められる者 (5) 上記の 4 項を含み、その他の学則に違反がない者で、個人の日本語能力、学習能力に問題があり、修了の見込みがないと当事業所から判断された場合。この場合に限り、受講料の半額返金を行い退学とする。 (6) その他この学則または、これに基づく規定に違反した場合
22	入学者の選考	外国籍を有する者で本講座を受講することができる者は、日本語能力試験 N3 クラス以上、またはそれに相当する日本語能力を有するものとする。

カリキュラム(通信課程用)

事業者名 株式会社 土屋

研修事業の名称 土屋ケアカレッジ介護職員初任者研修

1 職務の理解(6時間)					
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法			
多様なサービスの理解	3時間	講義および演習：介護保険や保険外サービスについて講義を行い、グループディスカッションを行う。			
介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間	講義および演習：講義にて様々な職場の紹介をし、後半は演習にてそれぞれどんな職場で働くことを希望するか小グループに分かれて議論する。			
合計	6時間				
2 介護における尊厳の保持、自立支援(9時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
人権と尊厳を支える介護	4.5時間	1時間	3.5時間	1	講義、演習：人権と尊厳について講義を行い、演習では尊厳を支えるということはどういうことかを小グループで話し合う。 通信講習：人権と尊厳について学び、尊厳を支えるということはどういうことかについて理解を深める。
自立に向けた介護	4.5時間	1時間	3.5時間	1	講義、演習：自立に向けた介護について講義を行い、本当の自立支援ということはどういうことかについてグループディスカッションを行う。 通信講習：自立に向けた介護について学び、本当の自立支援ということはどういうことかについて理解を深める。
合計	9時間	2時間	7時間		

3 介護の基本(6時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
介護職の役割、専門性と多職種との連携	2時間	1時間	1時間	1	講義・演習：講義を行った後、演習では家族による介護と専門職による介護の違いなどについてグループで話し合う。 通信講習：介護職の役割、専門性と多職種との連携の重要性を学び、家族による介護と専門職による介護の違いなどについて理解を深める。
介護職の職業倫理	2時間	1時間	1時間	1	講義・演習：講義を行ったあと、演習にて介護職としての社会的責任などについてグループで話し合う。 通信講習：介護職の職業倫理について学び、介護職としての社会的責任などについて理解を深める。
介護における安全の確保とリスクマネジメント	1時間	0時間	1時間	2	通信講習：介護における安全の確保とリスクマネジメントについて学び、事故や感染などのリスクについて理解を深める。
介護職の安全	1時間	1時間	0時間		講義・演習：講義を行ったあと、演習にてストレスマネジメントなどについて意見を出し合う。
合計	6時間	3時間	3時間		

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携(9時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
介護保険制度	3時間	1時間	2時間	2	講義・演習及び通信講習：介護保険制度について講義を行い、演習にて制度のあり方などについてグループで議論する。 通信講習：介護保険制度について学ぶ。
障害福祉制度及びその他制度	3時間	1時間	2時間	2	講義・演習及び通信講習：基本的な考え方などの講義を行ったあと、演習にて障害福祉サービスなどのあり方についてグループディスカッションを行う。 通信講習：障害福祉制度及びその他制度の基本的な考え方を学び、障害福祉サービスなどのあり方について理解を深める。
医療との連携とリハビリテーション	3時間	0時間	3時間	2	通信講習：医療との連携の重要性を学び、医療行為の考え方や、一定の要件のもと介護職が行える医療行為について理解を深める。
合計	9時間	2時間	7時間		

5 介護におけるコミュニケーション技術（6 時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
介護におけるコミュニケーション	3時間	1時間	2時間	3	講義・演習及び通信講習：基本的なポイントなどの講義を行い、演習にて言語的、非言語的コミュニケーションを体験し、伝えられない要因と重要性などについて、グループで話し合いをする。 通信講習：基本的なポイントなどを学び、言語的、非言語的コミュニケーションの理解を深める。
介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	2時間	1時間	3	講義・演習及び通信講習：記録や報告の重要性などの講義を行い、演習にて記録の記載方法を体験し、内容・方法を検討し発表までつなげる。 通信講習：高齢者と健康について学び、疾病の症状や訴え、生活上の留意点などについて理解を深める。
合計	6時間	3時間	3時間		
6 老化の理解(6時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
老化に伴うところとからだの変化と日常	3時間	2時間	1時間	3	講義・演習及び通信講習：老化に伴いところとからだの変化の講義を行い、演習にて様々な変化に着目した心理的特徴などについてグループディスカッションを行う。 通信講習：老化に伴いところとからだの変化について学び、様々な変化に着目した心理的特徴などについて理解を深める。
高齢者と健康	3時間	1時間	2時間	3	講義・演習及び通信講習：講義を行ったあと、演習にて疾病の症状や訴え、生活上の留意点などについてグループで議論する。 通信講習：高齢者と健康について学び、疾病の症状や訴え、生活上の留意点などについて理解を深める。
合計	6時間	3時間	3時間		

7 認知症の理解(6時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
認知症を取り巻く状況	2時間	1時間	1時間	3	講義・演習及び通信講習：ケアの理念などの講義を行い、演習にて現在の状況やケアの考え方についてグループで議論する。 通信講習：ケアの理念などを学び、現在の状況やケアの考え方について理解を深める。
医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	0時間	2時間	3	通信講習：医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理を学び、健康管理のあり方などについて理解を深める。
認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1時間	1時間	0時間		講義、演習：認知症利用者の生活障害などの講義を行い、演習にて具体的な関わり方についてグループで議論する。
家族への支援	1時間	1時間	0時間		講義、演習：家族への支援の講義を行い、演習にて家族のストレスやレスパイトケアなどあり方についてグループで議論する。
合計	6時間	3時間	3時間		
8 障害の理解(3時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
障害の基礎的理解	1時間	1時間	0時間		講義、演習：障害の基礎について講義を行い、演習にて概念やICFについてグループで議論する。
障害の医学的側面、生活障害、心理、行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1時間	0時間	1時間	4	通信講習：障害の医学的側面などを学び、各障害の特徴や支援の考え方について理解を深める。
家族の心理、かかわり支援の理解	1時間	1時間	0時間		講義、演習：障害者家族への支援の講義を行い、演習にてストレスやレスパイトケアなどについてグループで議論する。
合計	3時間	2時間	1時間		

9 こころとからだのしくみと生活支援技術(75時間)						
基本知識の学習	項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	介護の基本的な考え方	4時間	3時間	1時間	4	講義・演習：介護の基本的な考え方について講義を行い、演習にてICFや法的根拠の基づく介護のあり方についてグループで議論する。 通信講習：介護の基本的な考え方について理解を深める。
	介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3時間	2時間	1時間	4	講義・演習：障害の医学的側面などの講義を行い、演習にて各障害の特徴や支援の考え方についてグループ討議する。 通信講習：障害の医学的側面など各障害の特徴や支援の考え方について理解を深める
	介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3時間	2時間	1時間	4	講義・演習：障害者家族への支援の講義を行い、演習にてストレスやレスパイトケアなどについてグループで議論する。 通信講習：障害者家族への支援、ストレスやレスパイトケアなどについて理解を深める。
生活支援技術の講義・演習	生活と家事	2時間	1時間	1時間	4	講義・演習：講義にて家事と生活の理解を行い、演習では生活と家事についてグループで議論する。 通信講習：家事と生活の理解を深める。
	快適な居住環境整備と介護	2時間	1時間	1時間	4	講義・演習：住居環境の基礎知識を講義にて行い、演習にて身体状況に合わせた介護や環境整備についてグループで議論する。 通信講習：住居環境の基礎知識、身体状況に合わせた介護や環境整備について理解を深める。
	整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	5時間	1時間	4	講義・演習：講義にて整容の意義を行い、実技演習では着脱介助などのロールプレイを行う。 通信講習：整容の意義や着脱介助についての理解を深める。
	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8.5時間	7.5時間	1時間	4	講義・演習：講義にて移動、移乗に関するからだのしくみを行い、実技演習では移乗、移動介助のロールプレイを行う。 通信講習：移動、移乗に関するからだのしくみの理解を深める。

	食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8.5時間	7.5時間	1時間	4	講義・演習：講義にて食事の意味や環境整備の方法を行い、実技演習では食事介助のロールプレイを行う。 通信講習：食事の意味や環境整備の方法、食事介助の理解を深める。
	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8.5時間	7.5時間	1時間	4	講義・演習：講義にて入浴や清潔の意味や環境整備の方法を行い、実技演習では全身清拭や部分浴のロールプレイを行う。 通信講習：入浴や清潔の意味や環境整備の方法、全身清拭や部分浴等の理解を深める。
	排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8.5時間	7.5時間	1時間	4	講義・演習：講義にて排泄の意味や環境整備の方法を行い、実技演習では排泄介助等のロールプレイを行う。 通信講習：排泄の意味や環境整備の方法、排泄介助等の理解を深める。
	睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4時間	3時間	1時間	4	講義・演習：講義にて睡眠や体位変換の意味や環境整備の方法を行い、実技演習ではベッドメイキングや体位変換のロールプレイを行う。 通信講習：睡眠や体位変換の意味や環境整備の方法の理解を深める。
	死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	5時間	4時間	1時間	4	講義・演習：講義にてターミナルケアの考え方や留意点を行い、演習では対応方法や介護職の役割についてグループで話し合う 通信講習：ターミナルケアの考え方や留意点、対応方法や介護職の役割について理解を深める。
生活支援技術演習	介護過程の基礎的理解	6時間	講義・演習：講義にて介護過程の目的や意義を行い、演習では個別援助計画の作成などを実際にやってみて、介護過程の展開を学ぶ。			
	総合生活支援技術演習	6時間	講義・演習：講義にて事例の意義や留意点を行い、演習にて事例検討などを実際にやってみて、事例検討に基づく一連の介護技を学ぶ。知識と技術の評価テストを行う。			
実習		時間				
合計		75時間	63時間	12時間		
10 振り返り(4時間)						
項目名		時間数	講義内容及び演習の実施方法			
振り返り		2時間	講義および演習：講義にて研修での学びを振り返り、今後継続して学ぶべきことなどの検討をした後、発表までつなげ理解を深める。			

就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2 時間	講義および演習：講義にて働く現場における継続的学習などを行い、演習にてキャリアパスや OJT などについて議論し、理解を深める。
合計	4 時間	
全カリキュラム合計時間	130 時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること

通学カリキュラム表

日数	時間数	科目/番号	科目名
1 日目	30分	入校式（オリエンテーション）	
	3 時間	1-①	多様なサービスの理解
	3 時間	1-②	介護職の仕事内容や働く現場の理解
	1 時間	2-①	人権と尊厳を支える介護
	1 時間	2-②	自立に向けた介護
2 日目	1 時間	3-①	介護職の役割、専門性とは職種との連携
	1 時間	3-②	介護職の職業倫理
	1 時間	3-④	介護職の安全
	1 時間	4-①	介護保険制度
	1 時間	4-②	障がい福祉制度およびその他制度
	1 時間	5-①	介護におけるコミュニケーション
	2 時間	5-②	介護におけるチームのコミュニケーション
3 日目	2 時間	6-①	老化に伴うところとからだの変化と日常
	1 時間	6-②	高齢者と健康
	1 時間	7-①	認知症を取り巻く状況
	1 時間	7-③	認知症に伴うところとからだの変化と日常生活
	1 時間	7-④	家族への支援
	1 時間	8-①	障害の基礎的理解
4 日目	1 時間	8-③	家族の心理、かわり支援
	3 時間	9-①	介護の基本的な考え方
	2 時間	9-②	介護に関するところのしくみの基礎的理解
	2 時間	9-③	介護に関するからだのしくみの基礎的理解
5 日目	1 時間	9-④	生活と家事
	1 時間	9-⑤	快適な居住環境整備と介護
	5 時間	9-⑥	整容に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護
6 日目	7.5 時間	9-⑦	移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護
7 日目	7.5 時間	9-⑧	食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護
8 日目	7.5 時間	9-⑨	入浴、清潔保持に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護
9 日目	7.5 時間	9-⑩	排泄に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護
10 日目	3 時間	9-⑪	睡眠に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護
	4 時間	9-⑫	死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護
11 日目	6 時間	9-⑬	介護過程の基礎的理解
12 日目	6 時間	9-⑭	総合生活支援技術演習
13 日目	2 時間	10-①	振り返り
	2 時間	10-②	就業への備えと研修修了後における継続的な研修
	1 時間	修了試験	
	30 分	修了式	

研修コーススケジュール

開催コース	開講日	通学日(計 13 回通学)
第 1 回 5 月短期コース	令和 8 年 5 月 12 日	令和 8 年 5 月 12 日～令和 8 年 6 月 29 日
第 2 回 8 月短期コース	令和 8 年 8 月 10 日	令和 8 年 8 月 10 日～令和 8 年 9 月 29 日
第 3 回 10 月最短コース	令和 8 年 10 月 3 日	令和 8 年 10 月 3 日～令和 8 年 10 月 31 日
第 4 回 1 月短期コース	令和 9 年 1 月 12 日	令和 9 年 1 月 12 日～令和 9 年 2 月 23 日

◆研修の特徴

通学 13 日間、自宅学習全 4 回を一緒におこなっていただく研修です。
実技試験、筆記試験をおこない、総合的に評価し合格となった場合には、修了証を発行いたします。
修了証はご自宅へ後日郵送いたします。

◆受講生の方へ

初任者研修は、介護の入口となる資格です。
基本的なことから丁寧にお伝えいたします。分からないことは分からないままにせず、講師にたくさん質問し、生きた知識となるようにしましょう。
困ったこと、不安なことがありましたらお気軽にお問い合わせください。

◆学習のポイント

①通信＋通学教育

⇒全カリキュラム 130 時間中、通学は 92.5 時間。通信学習もテキストに沿って自宅学習できます。学習方式に関しては以下の通りとなります。

《通信形式学習方法》

(1) 学習方法

添削課題を提出期限までに提出することとする。ただし、合格点に達しない場合は、合格点に達するまで再提出を求める。

(2) 評価方法

添削課題については、課題の理解度及び記述の的確性、論理性に応じて、担当講師が A、B、C、D の評価を行うこととする。

(A=90 点以上、B=80～89 点、C=70～79 点、D=70 点未満)

尚、評価 C 以上を合格とする。

（３）個別学習への対応方法

受講生の質問については、FAX（番号：050-3457-9334）で受け付ける。

《通学形式学習方法》

学習方法

対面による面接授業の実施。

実施場所：土屋ケアカレッジ 鹿児島教室

（１）評価方法

科目の研修をすべて修了し、介護に必要な基礎的知識の理解の確認（口頭試験）を受け、生活支援技術の習得状況を確認（実技試験）した上で、修了時評価を受けた後、筆記試験の評価を受ける。

終了筆記試験の認定基準は以下の通り。

（A=90点以上、B=80～89点、C=70～79点、D=70点未満）

尚、評価C以上を合格とする。

（２）個別学習への対応方法

受講期間中、随時講師への質問・相談を受け付ける。

②振替・補講制度

⇒講義を欠席されたときは無料で振替受講できます。個別対応補講につきましては、原則無料とします。

講 師 一 覧

事業者名 土屋ケアカレッジ鹿児島

研修課程 介護職員初任者研修 通信課程

令和8年4月1日現在

科目番号／科目名	項目番号／項目名	講師名	資格等	専任・兼任
1 職務の理解	① 多様なサービスの理解	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
1 職務の理解	② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
2 介護における尊厳の保持・自立支援	① 人権と尊厳を支える介護	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
2 介護における尊厳の保持・自立支援	② 自立に向けた介護	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
3 介護の基本	① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任

3 介護の基本	② 介護職の職業倫理	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
3 介護の基本	③ 介護における安全の確保と リスクマネジメント	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
3 介護の基本	④ 介護職の安全	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
4 介護・福祉サービスの 理解と医療との連 携	① 介護保険制度	田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
4 介護・福祉サービスの 理解と医療との連 携	② 医療との連携とリハビリテ ーション	相川和史	理学療法士 介護福祉士	兼任
		岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
4 介護・福祉サービスの 理解と医療との連 携	③ 障害者総合支援制度及びそ の他制度	田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	理学療法士 介護福祉士	兼任
		岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
5 介護におけるコミュ	① 介護におけるコミュニケー	岩川梨絵	介護福祉士	兼任

コミュニケーション技術	シヨン	穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
5 介護におけるコミュニケーション技術	② 介護におけるチームのコミュニケーション	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
6 老化の理解	① 老化に伴うこころとからだの変化と日常	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
		宅島由紀子	看護師	兼任
6 老化の理解	② 高齢者と健康	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
		宅島由紀子	看護師	兼任
7 認知症の理解	① 認知症を取り巻く状況	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
		宅島由紀子	看護師	兼任
7 認知症の理解	② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士	兼任

			理学療法士	
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
		宅島由紀子	看護師	兼任
7 認知症の理解	③ 認知症に伴うところとからだの変化と日常	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
		宅島由紀子	看護師	兼任
7 認知症の理解	④ 家族への支援	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
		宅島由紀子	看護師	兼任
8 障害の理解	① 障害の基礎的理解	福元こずえ	介護福祉士 社会福祉士	兼任
		岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
		宅島由紀子	看護師	兼任
8 障害の理解	② 障害の医学的側面、生活障害、心理、行動の特徴、かわり支援等の基礎的理解	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
		宅島由紀子	看護師	兼任
8 障害の理解	③ 家族の心理、かわり支援の理解	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任

		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
		宅島由紀子	看護師	兼任
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	① 介護の基本的な考え方	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
		宅島由紀子	看護師	兼任
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	福元こずえ	介護福祉士 社会福祉士	兼任
		岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	宅島由紀子	看護師	兼任
		岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	④ 生活と家事	宅島由紀子	看護師	兼任
		岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	⑤ 快適な居住環境整備と介護	宅島由紀子	看護師	兼任
		岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任

		河南由美	看護師	兼任
		宅島由紀子	看護師	兼任
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	⑥ 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
		宅島由紀子	看護師	兼任
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
		宅島由紀子	看護師	兼任
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
		宅島由紀子	看護師	兼任
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	⑨ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
		宅島由紀子	看護師	兼任
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
		宅島由紀子	看護師	兼任

9 こころとからだのしくみと生活支援技術	⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
		宅島由紀子	看護師	兼任
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	⑫ 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
		宅島由紀子	看護師	兼任
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	⑬ 介護過程の基礎的理解	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
		宅島由紀子	看護師	兼任
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	⑭ 総合生活支援技術演習	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
		宅島由紀子	看護師	兼任
10 振り返り	① 振り返り	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員	兼任
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任
	② 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	岩川梨絵	介護福祉士	兼任
		穴見順子	介護福祉士	兼任
		田中敏光	介護福祉士 社会福祉士	兼任

			介護支援専門員	
		相川和史	介護福祉士 理学療法士	兼任
		佐藤倫	介護福祉士	兼任
		河南由美	看護師	兼任

- * 項目ごとに担当講師を記載すること。項目を分割した場合は分けて記載すること。
- * 病気等による急な講師変更への対応も考慮し、担当することが想定される講師すべてを記載すること。

実技演習使用備品等一覧

研 修 名 土屋ケアカレッジ介護職員初任者研修課程
 事業者名 株式会社 土屋 土屋ケアカレッジ

備品名	台数	所 有 / レンタル
(介護用) ベッド	2	(所有 ・ レンタル ・ その他)
車いす	4	(所有 ・ レンタル ・ その他)
ポータブルトイレ	2	(所有 ・ レンタル ・ その他)
簡易浴槽	1	(所有 ・ レンタル ・ その他)
その他備品	4 台 1 体 2 枚 必要数 必要数 人数分 4 着 4 着 4 着 6 枚 必要数 必要数 必要数 必要数	歩行補助杖 心配蘇生人形 スライディングボード 紙おむつ 紙パンツ ディスポ手袋 パジャマ 浴衣 寝巻 食事用エプロン 介護用スプーン 介護用フォーク 食器 箸

担当講師略歴（介護職員初任者研修）

№	講師氏名	科目番号	資格(取得年月日)	修了評価 担当の有無
			略歴(経験年数)	
			現在の職業(経験年数)	
①	岩川梨絵	講師一覧参照	介護福祉士(H13 年 5 月 9 日)	有
			病院、老健、DS、DC ・介護職員(11 年 10 ヶ月)	
			株式会社 土屋 土屋ケアカレッジ 研修講師(令和 4 年 11 月～)	
②	穴見順子	講師一覧参照	介護福祉士(H27 年 4 月 17 日)	有
			DS、有料老人、GH、 ・介護職員(8 年 5 ヶ月)	
			株式会社土屋 土屋ケアカレッジ 研修講師(R6 年 2 月～)	
③	田中敏光	講師一覧参照	介護福祉士(H22 年 4 月 16 日) 社会福祉士(H27 年 3 月 20 日) 介護支援専門員(R2 年 4 月 1 日)	有
			DS、有料老人ホーム ・介護職員、生活相談員(12 年 8 カ月) 地域包括支援センター(7 年) ・介護支援専門員、社会福祉士	
			株式会社土屋 土屋ケアカレッジ 研修講師(R4 年 12 月～)	
④	相川和史	講師一覧参照	理学療法士(H27 年 4 月 24 日) 介護福祉士(R4 年 4 月 4 日)	有
			病院 ・リハビリテーション業務(3 年) 共生型デイ/放デイ ・生活相談員、介護職員、放デイ管理者(4 年 11 ヶ月) 訪問介護 ・管理者・サービス提供責任者(2 年 7 ヶ月)	
			株式会社土屋 土屋ケアカレッジ 運営マネージャー兼研修講師(R7 年 11 月～)	

⑤	河南由美	講師一覧参照	看護師 (H22 年 5 月 19 日)	有
			病院 ・看護師 (27 年) 特別養護老人ホーム ・看護師 (8 年) 精神者・児障害福祉事業 ・看護師 (2 年 10 ヶ月) 障害訪問(看介)事業所 ・看護師 (R6 年 3 月～)	
			株式会社土屋 土屋ケアカレッジ 重度訪問介護・指導看護師・研修講師(統合課程・実務者研修) (R4 年 11 月～)	
⑥	佐藤倫	講師一覧参照	介護福祉士 (H19 年 4 月 13 日)	有
			障害者授産施設 ・寮母 (1 年 4 ヶ月) 特別養護老人ホーム、グループホーム ・介護職 (4 年 2 ヶ月) 宅老所・訪問介護・通所介護 ・介護職 (7 年 4 ヶ月) 研修講師(初任者研修・実務者研修) (H29 年 5 月～) 訪問介護 ・サービス提供責任者 (R5 年 11 月～)	
			株式会社土屋 土屋ケアカレッジ 研修講師 (R8 年 3 月～)	
⑦	宅島由紀子	講師一覧参照	看護師 (H9 年 4 月 17 日)	無
			病院 ・看護師 (24 年 6 ヶ月) 訪問看護 看護師 (R7 年 1 月～)	
			株式会社土屋 土屋ケアカレッジ 研修講師 (R8 年 3 月～)	